

若手会員の会 活動報告

<http://jweld.jp/welnet/index.html>

(若手会員の会からののお知らせはホームページにも掲載しています)

この2年間の若手会員の会活動のまとめとご挨拶

若手会員の会運営委員会 委員長 荻野 陽輔 (大阪大学)

Acknowledgements of two years activities of WELNET

2018, 2019年度の2年間、若手会員の会運営委員会の委員長を務めさせていただきました。たくさんのご協力を賜りました幹事をはじめとする運営委員の皆様、ならびに、本学会の業務委員会、関連の企業の皆様に深く御礼を申し上げます。任期を終了するにあたりまして本稿を執筆する機会をいただきましたので、この期間中のまとめとともにご挨拶とさせていただきます。

私が委員長に就任した2年前、世代交代という大義名分のもと多くの運営委員も入れ替わり、若手会員の会運営委員会も新たな船出を迎えました。私自身もコミュニティのリーダーとしてメンバーを引っ張っていくような経験もなく何ができるか不安な中、活動をスタートさせました。一方で、どこか活動が形骸化・マンネリ化しつつあるような印象は持っており、若手会員としての活動をもっと活性化できないかという思いも抱いておりました。とは申し上げましても、活動の中身そのものを大きく転換することは難しく、諸先輩方が築き上げてきた活動をベースに取り組みさせていただきました。

「全国大会での若手イベント」として春季全国大会においては、イブニングフォーラムを開催させていただ

いており、2018年度は「若手研究者が海外研究経験によって得られたもの」、2019年度は「大学・中立機関からの研究シーズ、企業からのニーズ紹介」というテーマで若手研究者、技術者の活動を紹介する場を設けさせていただきました。特に、2019年度からは日本溶接協会の「次世代を担う研究者助成事業」の成果報告セッションとリンクし、これまで溶接学会での活動が多くない研究者の方々との情報交換も推進しております。秋季全国大会においては、ポスターセッションを開催させていただいており、2018年度は81件、2019年度は50件のポスター発表がなされました。発表件数は会場のキャパシティに依るため増減がありますが、毎年キャパシティを超える発表応募があり、非常に盛況な場となっております。特に学生からの発表が多くみられ通常のセッションよりも深いディスカッションがなされています。私が所属する研究室の学生も毎年数名発表させていただいておりますが、発表経験の少ない学生でも活発にディスカッションしている様子が見られ、感心するとともに良い経験となっていることと確信しています。

「研究会・施設見学会」を毎年3回、溶接関連企業、機関ならびに支部の皆様のご協力のもと開催させてい

いただきました。2018年度は、(株)山本金属製作所岡山研究開発センター(2018年7月)、(株)ナックイメーテクノロジー横浜工場(2018年11月)、久留米工業高等専門学校および日之出水道機器(株)(2018年12月、九州支部若手グループとの共催)、2019年度は、住友重機械工業(株)・住友重機械マリンエンジニアリング(株)横須賀製造所(2019年7月)、菊川工業(株)キクカワテクノプラザ(白井工場)(2019年11月)、日鉄エンジニアリング(株)、(株)リージェンシー・スチール・ジャパン(2020年1月)にて開催させていただきました。研究会では、毎回時間ギリギリまで活発なディスカッションが行われております。毎回10~20名程度のこぢんまりとした場というのが濃密な時間を形成するには効果的のように感じています。施設見学会では、各所のスケールに圧倒され、また個性の詰まった現場での技術を目の当たりにし、研究活動に対するモチベーションが湧き上がってくるような思いでおります。見学中も活発に質疑応答がなされており参加者各位にとっても有意義な場となっていることと思います。研究会・施設見学会の開催にあたり受け入れをご快諾いただきました企業・機関の皆様には深く御礼を申し上げます。

上記の研究会では、より互いの知見を深めることを目的として「Welnet 勉強会」も合わせて開催してきました。通常の研究発表では、聞くことのできない裏話まで含め知見を共有し、共同研究などへの発展の足掛かりとなることを期待しています。現在は、知見の共有がもっと双方向的なものとなる場とするべく、改善案を模索している状況です。

これまでになかった取り組みとして、高校生および高専生に向けた「若手溶接研究者による出前講義」をスタートさせました。若手会員が高校や高専に出向き「溶接ってなに?」から「最新の溶接研究トピック」まで講義します。これから進路を考える高校生、高専生に対して、溶接というキーワードを認識してもらい、また溶接が研究の対象となりうることを知ってもらうということが目的です。「ものづくり」に対する興味と「溶接」に対する興味がつながるきっかけとなり、次世代を担う溶接研究者・技術者が一人でも多く生まれることを期待して活動を進めています。講義後には、講師に対して個別に質問に来る生徒も多くみられ、興味をそそる内容となっていることと思います。成果が形

となって表れるのはまだまだ先のことと思いますが、楽しみにしております。また、出前講義の開催にあたっては日本溶接協会よりノベルティのご提供をいただきました。深く御礼を申し上げます。

グローバルネットワーク活動といたしまして、IIW年次大会におけるYoung Professional向けイベントへの参加者派遣、溶接若手研究者のための国際会議Young Professionals International Conference (YPIC)への参加者派遣を行いました。いずれの会においても海外からの参加者が集っており、国際色豊かなものでした。特にYPICにおいては、参加者数が20名程度と少人数でありながら、研究発表に加えてチームディスカッションの時間も設けられ、海外の若手研究者とも深い交流がとれるものとなっていました。これらの国際会議への参加は国際交流の促進という面では効果的なものと考えており、これらの動向は引き続き注視することとしています。一方で、旅費や日程等の問題からその利益を享受できるメンバーは限られてしまっているのも事実です。今後、学会として、若手会員の会としてそのメリットを最大限に高め、グローバルネットワーク活動の最大の目的である国際的なプラットフォーム形成に向けて、より効果的な活動を模索しているところです。

若手会員の会は、若手研究者・技術者のネットワーク形成が最も大きな目的です。私が委員長に就任した当初感じていたのは、まず、溶接学会の若手会員(35歳以下の全会員)に若手会員の会の活動を知ってもらう必要があるということです。冒頭で述べた「どこか活動が形骸化・・・」というのは、いつも同じメンバーが集まってわいわいやる、という印象を抱いていたからで、いまいちネットワークの広がりというものを実感しきれずにいたことに起因するものです。若手会員の会という存在は知っていても、何をしているかわからない、参加してもいいのかわからない、そもそも存在も知らない、といった若手会員の方が多くいらっしゃったものと思います(勝手な想像ですが)。なんとかいろんな方々を巻き込んでいけないものかと思案しつつも、結局できたのはメーリングリストを改訂し若手会員全体への情報発信を強めたことくらいでした。それでも、研究会・施設見学会などは「はじめまして」の方の参加がぐっと多くなり、少なからず効果はあったものと実感しています。若手会員の会運営委員会と

しては、より多くの方々に対して活動を知っていただくこと、活動に参加することのメリットをしっかりとアピールしていき、ネットワーク形成をさらに加速させていくことが重要な課題です。加えて、出前講義や各種メディアを通じて次世代の若手研究者・技術者へと、ネットワークをつなげていくということも考える必要があります。

委員長として活動させていただいた2年間はとても早く駆け抜けてしまい、あっという間に終わってしまった印象です。不安な中スタートした2年間で、できた

ことはとても少なかったと思いますが、勉強させていただくことが多く、成長させていただいた2年間でした。若手会員の会の恩恵を最大限に享受したのは私自身に他ならないと思います。改めて、若手会員の会の活動にご支援・ご協力いただきました皆様に深く御礼を申し上げます。本年度からは、また新たな体制で新たな若手会員の会が動き出しています。今後も若手会員の会へのご指導・ご鞭撻ならびにご支援・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

読者の **Goiken-bako** (御意見箱) 受付中! 皆様の御意見をお聞かせください。

「自由編集ページ」として若手会員の会から毎号メッセージをお送りさせていただいております。さらに内容の充実を図るために読者の皆様の御意見・御感想をお聞かせください。若手会員だけでなく幅広く御意見をいただければ幸いです。皆様からの御意見は「若手会員の会 運営委員会」で参考にさせていただきます。下記の項目について御回答の上、郵送またはFAXでお送りください。お送りいただいた方の中から抽選で毎号1名様にQuoカードを差し上げます。

◆送付先： 溶接学会 若手会員の会「Goiken-bako」係
〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町4-20
溶接会館6F

FAX: 03-5825-4331
(Subjectに”Goiken-bako”と御記入ください)

-----「Goiken-bako」記入項目-----

-
- (1) 氏名, フリガナ, 年齢, 溶接学会入会年, 所属, 住所 (Quoカード送付先)
 - (2) 何月号についてお答えいただけますか。()
 - (3) 「自由編集ページ」についてのご意見・ご感想.
 - (4-1) 今月の溶接学会誌の全ての記事の中で、興味のある記事 (ページ番号でお答えください).
 - (4-2) 今月の溶接学会誌についてのご意見・ご感想.
 - (5) 今後「自由編集ページ」や溶接学会誌で取り上げて欲しい記事.